二〇二四年度　流通科学大学　補助プリント
駿台予備学校　入試対策講座・現代文　橋立　誉史

【現代文の出題傾向及び対策】

1、出題傾向（設問内容）

・本文はそう長くはないが、大問につき八～十問程度出題されているので、時間配分や解答スピードを意識した「正確な速読」が求められる。
・公募推薦入試でも一般入試でも三題出題される。試験時間内に解き終えるためには、テンポよく本文読解および解答作成をおこなう必要がある。つまり、ある程度の「解答速度」が求められる。
・文章の種類として、評論や随想が出題されている。
・本文を読む際には、大事なポイントに線を引きながら読む。
・設問タイプは、漢字、空欄補充、文学史、内容説明、内容合致など。
→《知識問題》漢字、空欄補充、文法問題、文学史など
《読解問題》内容説明、理由説明、内容合致など

《二〇二四年度　公募推薦入試〈前期型〉》を例として

第一問・評論

問一　漢字問題　問二　段落整序（並べ替え）　問三　文学史
問四　漢字問題　問五　空欄補充　問六　空欄補充
問七　空欄補充　問八　内容説明　問九　内容説明　問十　内容合致

第二問・評論

問一　漢字問題　問二　語句問題　問三　理由説明
問四　漢字問題　問五　内容説明　問六　空欄補充
問七　文学史　問八　内容合致

第三問　（都合により省略）

＊漢字問題、語句を選ぶ問題、文学史といった基礎知識（言葉の知識や国語常識）の問題が、読解問題の中で出題されている。
＊読解力を確認する問題では、傍線部の内容や理由を説明する問題、本文内容との合致を確認する問題などが出題されている。

2、対策

①知識問題

↓おぼえていれば正解・得点できる問題。得点源とすべき。国語便覧や語彙力・漢字の問題集を使って、集中的に取り組む。漢字・語句・文学史といった基礎知識（基幹知識）を養うのは、入試対策のためだけではない。大学入学後の学問研究や自分自身のスキルを高めるためでもある。計画的にかつ継続的に取り組んでおくべきである。

②本文読解（読解法と解答法の確立）

↓現代文の勉強方法として、文章によって読み方を変えたり、問題によって場当たり的にアプローチしたりするのは、得策とは言えない。たとえ初見の文章であっても、〈同じように読み、同じように解く〉という「読み方」「解き方」の方法論を理解して、作業することができるように準備していく。これが、現代文の勉強である。

③過去問題で、知識問題や読解法・解答法の確認・完成

↓流通科学大学の過去問題を使って、知識問題や読解法・解答法の確認をしよう。必ず、二回以上解く（本番までに計画を立て実行する）。一回目は、制限時間を設けずに、ゆっくり解いて「読める・解ける」という方法を確認する。二回目は、時間をはかりながら、はじめて解くつもりで、「時間内完結」を目指す。つまり、解答スピードの確認をおこなう。

【現代文の学習　まとめ】

① 基礎知識をおぼえる　↓　漢字、語句や文学史　など
② 読解法・解答法の確立　↓　自力で読んで、解ける方法の習得
③ 過去問題で確認・完成　↓　「時間内」で解ける方法とスピードの確認

《二〇二四年度公募推薦入試〈前期型〉入学試験問題　第一問》を例として
＊外山滋比古「多元論」より

《設問解説》

＊設問解説中の記号は、S「主語」、P「述語」、R「理由」をそれぞれ示す。

問一

【解答】　②

＊「折衷」　①接近　②折衝　③説得　④切削

＊漢字問題は「満点クリア＝失点しない」ことを意識して、怠りなく対策しよう。

問二

【解答】　③

＊段落整序の問題。段落A～Dだけで考えるのではなく、第1段落や第6段落とのつながりも確認しよう。つながりを確認しやすいところから確定していこう。

＊第1段落末尾「二者択一」について述べていることから「一元論」「多元論、復元論」の説明がある段落Bにつながると判断できる。段落A冒頭「一元論から見ると多元論が……」とあることから、段落Bからつながると判断できる（B→A）。

段落A「日本語は多元論的文化の中で発達してきたもの……一元論からすれば矛盾だということになる」とあるが、それを段落D冒頭「しかし」で受けて、「多元論のメリット」の説明につながると判断できる（A→D）。さらに、段落Cは多元論の内容が説明され、段落末「観客が笑いこけるような場面があってはよろしくない」という内容が、第6段落冒頭で「ところが」という逆接で受けて、「シェイクスピア」の話につながると判断できる。そうすると、「B→A→D→C」の順であると確定できる。

問三

【解答】　②

＊文学史の問題。しっかり対策して、確実に正解できるようにしよう。

＊『小僧の神様』は志賀直哉の作品。『友情』は武者小路実篤の作品。

問四

【解答】　④

＊「首尾一貫」　①保守点検　②手段　③主張　④首脳

問五

【解答】　③

＊語句に関する問題。語彙力を問う問題は頻出なので、しっかりと対策しよう。

問六

【解答】　③

＊空欄補充の問題。直前の段落（段落Ｃ）の末尾「観客が笑いこけるような場面があってはよろしくない」と空欄直後「シェイクスピアのような天才は滑稽な場面を挿入することによって、かえっていっそう悲劇感を高めるコツを知っていた」とのつながりを確認しよう。そうすれば、逆接の接続詞「ところが」に決まる。

問七

【解答】　①

＊四字熟語の知識も合わせて問われている。「同工異曲」とは、〈見た目は異なっているように見えて、中身は似たり寄ったりで変わりがない〉という意味である。

問八

【解答】　④

＊内容説明。傍線部直後「同種のものや筋のとおったものを……それが「とり合わせ」である」とある。そのことにあてはまる「シェイクスピア」の具体例を選ぶ。

問九

【解答】　②

＊「伝統的な日本人の論理観」と合致しないものを選ぶ。第７段落「同種のものや筋のとおったものを集めるのではない―それでは月並みで退屈になる」が根拠。

問十

◎設問理解

内容合致の問題。この問いを例題として、スムーズかつ正確な「論理的解答法」をマスターしよう。また、試験本番で確実に正解できるように、過去問を用いてくりかえしトレーニングしておこう。

【解答】　ａ＝①　ｂ＝②　ｃ＝②　ｄ＝①

＊ａについて、第１段落の内容と合致する。

＊ｂについて、「未熟な文化である」が虚偽。

＊ｃについて、「外国語の論理は単調で退屈、人間らしさに乏しく冷たいと感じられる」が虚偽。

＊ｄについて、第７段落の内容と合致する。

《ことばのチカラ》

・二者択一　・折衷　・一元論　・多元論　・首尾一貫　・範疇　・同工異曲

＊本文に登場する語句の中で、意味を知っておくべき語句を抜き出してあります。自分の言葉で説明できないものについては、辞書を使って意味調べをしましょう。